



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2026年01月13日 第1250「週刊五十嵐レポート」

倒産しづらい企業

帝国データバンクによると、小規模企業の倒産は全体の約8割を占める。日本企業の99.7%が中小企業で、内約8割が小規模企業(従業員20人以下)。倒産の8割が小規模企業と言われても仕方がない。

小規模企業でも倒産しづらい企業の共通点をチャットGPTに訊いてみた。

1. 手元資金を潤沢に持つ。(固定費6~12か月の現預金を確保)
 2. 安いから選ばれている状態を避ける。(他社と単純比較されない)
 3. 取引先を選べる立場に立つ。(断る勇気を持つ)
 4. 社長が数字を把握している。(数字を経営判断に使う)
 5. 無理な拡大をしない。(安易に正社員を増やさない)
 6. 撤退判断が早い。(倒産する会社は「もう少し頑張れば」で手遅れに)
 7. 地域密着。定期収入がある(保守・点検・会費等)。専門性が高いニッチ。
- 逆に倒産しやすいのは、薄利多売、流行先行、初期投資過大など。

倒産しづらい企業になるには、どうすればいいのか。手元資金を厚くするには、一人当たりの粗利益を同業者より多くしなければならない。同業者よりも「有利な条件」で粗利益が補給される「根拠」を作る必要がある。

有利な条件とその根拠とは何か。

商品・有料なサービスで他社より秀たものがあること(納期・スピード対応、専門性等)。

仕入価格と販売価格がほぼ決まっている卸売業等は営業地域の決め方で付加価値をつけることが重要。特定の地域に顧客を密集して作る。

小売業や飲食業は立地条件と重点地域の決め方と最大範囲の決め方、そして客層の決め方が大事になる。

最後に、小さな成功で調子に乗らない。ちょっと上手くいくと、気が大きくなり、車を高級車に買い替え、自社ビルを建てたりする。自社ビルが建つ頃に業績が下り坂になることが多々ある。

ちょっと
気になる出来事

1月11日付日経新聞、「ブルーカラー賃上げ格差」という記事。専門スキルを持つ現業職「ブルーワーカー」で賃上げの勢いに格差が出ている。

2024年の所定内給与を20年と比較すると、タクシー運転手は4割増える一方で、板金従事者など減少する職種もある。

厚生労働省の賃金構造基本統計調査で所定内給与を比較。伸び率が顕著なのが「タクシー運転手」で40%増えた。とび職・鉄筋工・型枠工など「建設躯体工事従事者」は18%増え、全体平均7%増の伸びを上回った。

ブルーワーカーはデジタル化やロボット化に対応しづらく、人材の需要は高い。一方、大学進学率の上昇に伴いホワイトカラー職種を選ぶ若者が増え、ブルーワーカーの就業者数は減っている。

1月8日付日経新聞、「価格は語る」では「型枠工」の賃金が上昇しているという記事。特に地方で人手不足が目立ち宮城県が東京都の人件費を上回った。

AI化、IT化、ロボット化していくとホワイトカラーはどんどん要らなくなる。ブルーワーカーが脚光を浴びる時代が来ている。



一口メモ
知識

ほどよい行為

「いい加減」という言葉は

「過不足のない、ちょうど良い加減」という最高の言葉なのに、最近ではすっかり「ちゃらんぽらん」という悪い意味でしか使われなくなってしまったねえ。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

